

学校便り

学校教育目標

知徳体の調和のとれた品性ある子の育成

—笑顔いっぱいの学校—

知恵を出し合う子

思いやりを形で表す子

きびきび動く子

前期学校評価の結果のお知らせ

最近、日の入りが早くなるとともに冷え込みも厳しく感じられる頃となってきました。しかし、前庭や運動場で元気に遊ぶ子どもたちの姿も見られます。学校では、この大切な子どもたち一人一人が成長していけるよりよい学校にするために、児童アンケート、保護者アンケート、教員アンケートを基に学校評価を行っています。前期の結果と改善策、学校関係者評価委員の皆様からいただいたご意見をお知らせいたします。

	重点取組	指標・評価観点	評価方法	評価結果	分析と改善策
学習(知恵を出し合う子)	・伝わる声の大きさで最後まではっきり発言し、反応する。	・大きな声で発言し、反応している。	教職員アンケート	60% D	全員でそろえて声を出す場面では、大きな声で言えるようになってきたが、個人の発言になると、自信がもてず小さな声になってしまう。事実問などの児童が自信をもって言えるところで、大きな声で言えるように指導する。少しでも大きな声になったときに認めていく。
	・根拠を明確にして説明ができる。	・グループ活動中及び前に出て、根拠を明確にして説明している。	教職員アンケート	70% C	全体交流の場で根拠や理由を明確にして話すことになると、言える児童は限られている。ペアやグループ交流を通して、根拠や理由が言えるように鍛えていきたい。ペアやグループでの話し合い活動の場で、「どうして?」「それは〇〇ということですか。」「どこからわかったのですか。」などの言葉を使うことで、根拠や理由を明確にしていくとともに、聞く意識を高め、話し合い活動を充実させていく。
生徒指導(思いやりを形で表す子)	・「すじ掃除」をする。 ※「すじ」すみずみまで、しゃべらずに	・必要のないことは話さずに掃除をしている。 ・自分からすみずみまで汚い所を見つけて掃除している。 ・落ちているゴミを拾っている。	児童アンケート	92% A	掃除の時間に「そうじをしない」という児童はおらず、どの子も前向きに取り組んでいる。また、ペア学年で取り組むことで互いに意識し、認め合い良い雰囲気生まれていると感じられる。 2学期は児童の「どちらかというあてはまる」の39%を「あてはまる」にあげるために、全職員が率先垂範の意識をもってそうじの時間にできる限りそうじに取り組む、ゴミを拾う姿を見せ、子どもの心の変化を促したい。
	・教室の机やイス、靴、傘などの整理整頓をする。	・教室を出る時、机や椅子を整えている。 ・靴を揃えている。	児童アンケート	91% A	担当の先生の熱心な指導のおかげで靴は「整える」ことが習慣となってきた。教室の整頓は体育や特別教室の授業時の教室の様子を撮影するなどし、児童自身にフィードバックさせていくことを担任が心がけていくことで評価が上がっていくと考えられる。
	・自分から目を見て笑顔で明るく先生や地域の方、来校者にあいさつをする。	・先生や地域の方、来校者にあいさつをしている。 ・自分から明るくあいさつしている。	教職員アンケート 児童アンケート	100% A 87% B	職員が児童・地域・来校者に自分からあいさつをしているに「あてはまる」と答えた割合と、職員目線の児童のあいさつをしているに「あてはまる」「どちらかというあてはまる」の割合が同じである。職員の「どちらかというあてはまる」割合を「あてはまる」に上げることで、児童の「どちらかというあてはまらない」割合を減らすことにつながると思う。また、それが児童自身の肯定的評価の上昇につながると思う。
	・時間を守る	・チャイムスタートをしている。 ・終了時刻を守っている。 ・時計を見て行動している。	教職員アンケート 児童アンケート	90% A 86% B	生活委員会がノーミュージックデーの取組を行ったことにより、自分たちが「目」でなく、「耳」で時間を意識していることを実感したため、B評価になったと考えられる。生徒指導部では、「目」で見て、判断し、行動する広陽っ子を目指している。2学期以降は2限&4限&6限前は予鈴なし、月末にはノーチャイムデーを実施し、「時計を見る」という習慣を身につけさせたい。
特別体育(きびきび動く子)	・記録を伸ばす。	・授業中の指示の中に前時間、前学年の記録や現在の目安の記録を示している。 ・体育の授業で記録を伸ばせたと感じている。	教職員アンケート 児童アンケート	95% A 89% B	教職員は体育の授業においては単元によっては目指す記録を示したり、目指す活動像を示したりすることを意識して取り組んでいることが分かる。一方、児童は自分のためをわたり活動に取り組んでいるものの、それが自分の体に成果として表れていることを、全員が実感できているとはいえない。特に高学年になるほど肯定的な回答の割合が下がっている。児童の理解や意欲を向上させるために、どのような運動でどのような力がつかのか、どんな力を伸ばしたいのか、体育の授業の工夫や声掛けなど、意欲が持続していくような工夫が必要。また、投げる能力向上のためにスポチャレいしかわのシャトルボールに取り組む。
地域・保護者	・各種便りやホームページなどを通じて、保護者への情報発信に努める。	・各種たより(学校便り・学年便り・保健便り・図書館便り・給食便り)を月1回出している。 ・学年便りは必ず写真を掲載している。 ・ホームページは月1回更新している。	保護者アンケート	93% A	多くの保護者、地域の方は学校からの情報や内容について、理解を示していると考えられる。今後も、学校の取組や各学年・学級の様子を積極的に発信し、学校・家庭・地域の連携を推進していく。学校ホームページの更新を行っているが、更新頻度を上げること、学校行事の予定を随時更新すること等も進めていく。

○学校関係者評価委員会より

- ・規則正しい生活について。就寝時間に課題がある。家庭と連携して進めていきたいと考えている。
- ・先生の残業について。少しずつ短くなってきている。校内で教材の共有など工夫してきているが、なかなか短くならない現状がある。
- ・懇談会などの参加常用について。懇談会の参加人数は、少ない。持ち方や内容を考えてPTAと協力して参加人数を増やしていきたい。
- ・PTA活動について。PTA活動のメリットなどプラスの面を発信していこうと考えている。
- ・子どもは多様な人に育ててほしい。それが欠け始めている。学校任せではなく、自分で何ができるかと考えて全員で育てていく環境にしていきたい。

